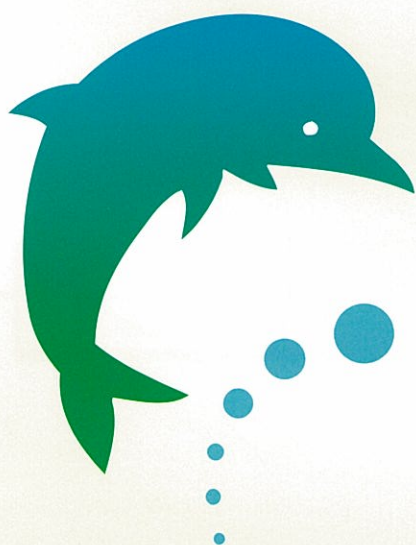


第3章

計画の内容

1. 体系図

2. 目標別計画



1. 体系図

基本理念

女(ひと)と男(ひと)が輝くゆたかなまち
おやべ

基本目標

I 自分らしさを尊重する意識・風土づくり
(男女平等意識の確立)

ともにみなおす

II 政策・方針決定の場への男女共同参画の推進
(男女がともにすすめるまちづくり)

ともにすすめる

III 人権を擁護するしくみづくり
(男女の心とからだの尊重)

ともにまもる

IV 男女の自立を促す環境づくり
(社会活動等への男女共同参画の推進)

ともにつくる

V プランの推進

ともにひろげる

重点課題	施策の方向
制度や社会慣習、しきたりの見直し、意識の改革	<ul style="list-style-type: none"> ・性別による固定的な役割分担意識の払拭 ・制度や社会慣習、しきたりの見直し
多様な選択を可能にする教育・学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育における男女平等教育の推進 ・家庭内における男女共同参画意識の啓発 ・職場内における男女共同参画意識の啓発
意識改革への市民参画の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参画の仕組みづくり
政策・方針決定の場への女性の参画拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・審議会等への女性の参画促進 ・女性管理職の登用促進 ・政策・方針決定過程での市民参画の拡大
女性の人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の人材育成と確保 ・女性を中心とするグループ[※]の活動支援及びネットワークの充実
男女の人権尊重	<ul style="list-style-type: none"> ・男女の人権を守る啓発活動の推進 ・女性への暴力の根絶 ・セクシャル・ハラスメントの防止 ・刊行物等の男女共同参画の視点からの表現の見直し
生涯にわたる健康づくりへの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・「性と生殖に関する健康と権利」の尊重 ・心とからだの健康づくりの推進
家庭での男女共同参画の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同による家事・育児・介護の促進 ・職場と家庭の両立支援体制の充実 ・子育て支援の充実 ・ひとり親家庭等の福祉の充実
職場・仕事での男女共同参画の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用・労働条件の男女平等の確保 ・農林水産業や商工自営業における参画促進 ・女性の起業支援
地域での男女共同参画の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・女性地域リーダーの育成 ・男女で担う地域活動、ボランティア活動の推進 ・高齢者の安心で生きがいのある環境づくり
国際社会における理解と協調	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流・国際協力の推進 ・地域における在任外国人との共生
推進体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画協議会設立 ・男女共同参画を推進するグループの活動支援 ・庁内推進体制の整備
男女共同参画推進のための拠点機能の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・男女平等を推進する活動拠点の整備
プランの周知及び調査・研究の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画に係わる諸問題の啓発、調査、研究 ・プランの周知

2. 目標別計画

基本目標 I

自分らしさを尊重する意識・風土づくり (男女平等意識の確立)

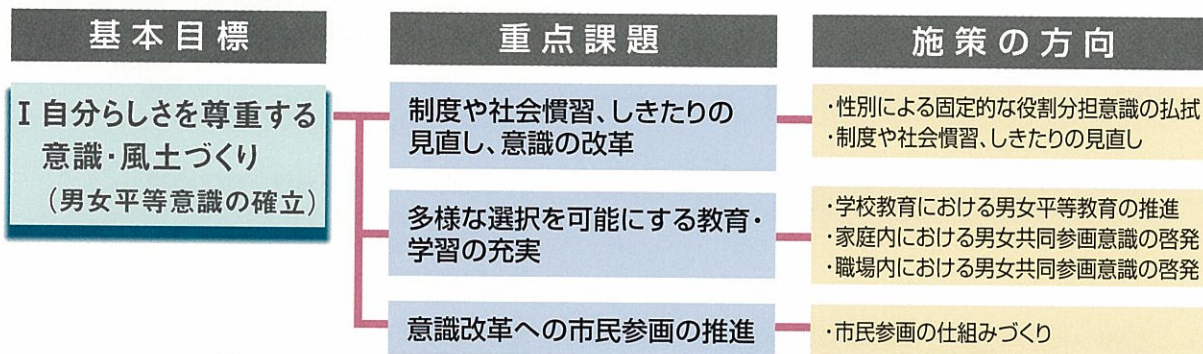
「男は仕事、女は家庭」というような、性別役割分担意識は、人々の意識の中に根強く残り、女性の社会参画や男性の家庭内での参画を困難にしています。

男女共同参画社会の実現に向けて、市民一人ひとりが自分の中にあるジェンダー※1の存在に気づき、意識改革に努めるとともに、社会全体において、「すべての人が性別に関わらず個人として尊重される」という人権意識を高め、男女がともに自分らしさを大切にできる風土づくりをすすめることを基本目標とします。

※1「ジェンダー」:生殖機能などの違いによる生物学的な性別でなく、社会的・文化的に形成された性差

●体系

ともにみなおす



重点課題(1) 制度や社会慣習、しきたりの見直し、意識の改革

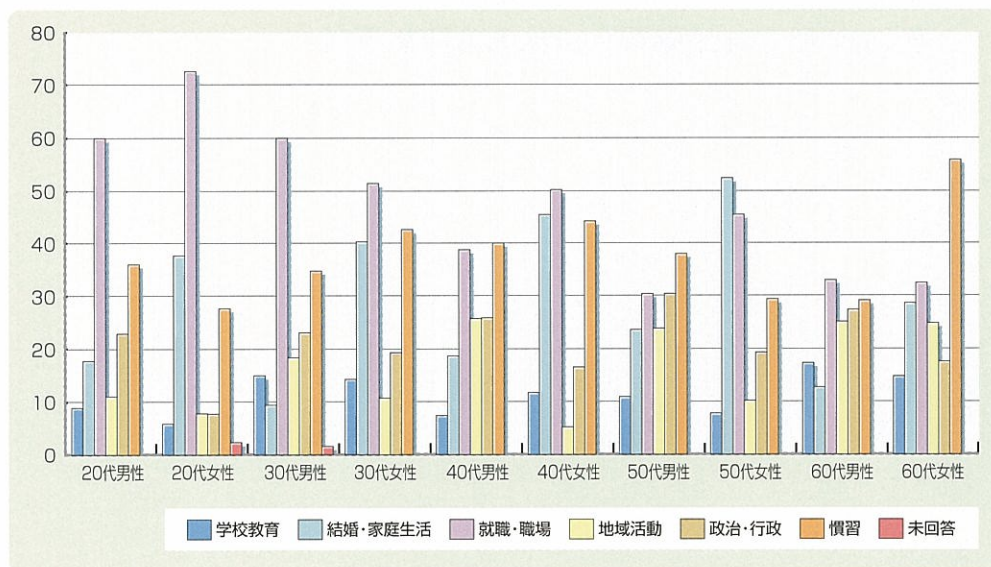
【現状と課題】

性別による固定的な役割分担意識、また、それに基づく社会における制度や慣習は依然として根強く残っています。

女性も男性もあらゆる分野において、個性や能力を發揮して自由に活躍するには、性別による固定的な役割分担意識にとらわれない男女共同参画の視点に立った社会制度や慣習の見直しが求められています。

○現在最も男女平等を進める必要がある分野(平成13年度実施住民意識調査より)

- ・「就職・職場」が若い年代で割合が高くなっていますが、「慣習」はどの年代でも男女平等が必要だと考える割合が高くなっています。



【施策の方向】①性別による固定的な役割分担意識の払拭

〔具体的施策〕

- ・ 男女平等意識を育む啓発冊子の発行（①男女全世帯向け②男性向け③高齢者向け）
- ・ 情報誌の発行
- ・ ケーブルテレビによる啓発番組の放送
- ・ 意識啓発講座、懇談会、フォーラム等の開催

【施策の方向】②制度や社会慣習、しきたりの見直し

〔具体的施策〕

- ・ 冠婚葬祭や家意識の中に残る女性についての偏見や差別につながる、しきたりや風習の見直しに向けた啓発
- ・ 職場、家庭、地域等様々な場における慣行等の見直しの働きかけ
- ・ 地域の冠婚葬祭や伝統芸能などにおける、男女の役割や特性についての固定的な考え方に基づく社会慣習やしきたりの調査・研究

